

第 7 次松山市総合計画
基本構想
(素案)

令和 6 年 4 月

(1) これからのまちづくりに向けて

コロナ禍を経て、私たちの価値観は多様化し、生き方、暮らし方、働き方などが大きく変化しました。

また、デジタル化、グローバル化、自然災害の激甚化、ダイバーシティ、担い手の確保、ウェルビーイングなど、さまざまな課題への対応が求められています。

中でも、急速な少子高齢化や人口減少への対策は最重要事項であり、住み続けられるまち、住み続けたいまち、そして若い世代からも選ばれるまちへの変革は急務です。

このような大きな時代の転換期を迎える今こそ、明治という新しい時代の幕開けに、未来へ向かって明るく、ひたむきに挑戦し続けた小説『坂の上の雲』の人々のように、私たちも、語らい、未来に夢を描き、多くの人々をひきつける笑顔を大切にしながら、その先に待っている一人ひとりの幸せが実現するまちに向かって、「つながる力」で挑戦します。

そして、年齢や性別、国籍、障がいの有無などに関わらず「人」がつながり、次の世代を意識しながら市の内外で「まち」がつながり、職業や働き方を超えて「仕事」でつながりながら、みんながワクワクする未来を紡ぎ出す都市。多くの人と文化が行き交い、世界が目にするSETOUCHIで、豊かな自然や温暖な気候に癒されながら交流できる拠点をみんなで目指します。

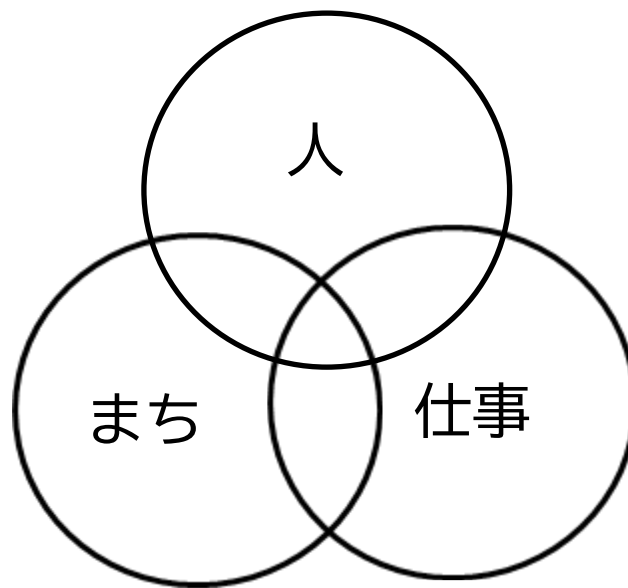
イラストや写真などが
入る予定

《まちづくりの理念》

一人ひとりの幸せが、実現するまちへ
～笑顔大切に、「つながる力」で挑戦～

《将来都市像》

人、まち、仕事がつながる SETOUCHI の交流拠点まつやま



全体像を示すイメージ図が
入る予定

(2) まちづくりの方向性

① 「人」がつながる

こどもから大人に成長し、年齢を重ねていく段階をはじめ、年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる「人」がつながっています。

- ① 学校生活では、確かな学力を身につけ、他者との関わりの中で健全で豊かな心や体力の向上が図られるほか、グローバル社会で活躍できるよう、ふるさとの文化・歴史はもちろん、外国の多様な文化・歴史にも触れられるようになっています。また、早い時期からのキャリア教育や環境教育、ICTを活用した情報活用能力の向上などが進み、今後さらに複雑で多様化する社会の変化に対応できるこどもの生きる力が育まれています。
- ② 家族や友達と一緒に遊びに行ける場所や、楽しく買い物ができる場所があり、常に新しい情報をキャッチして好奇心や感性を育みながら、日々の充実した暮らしを実感できることはもちろん、音楽やダンス、スポーツ、サブカルチャーなど、自分が興味のある活動を楽しみ、好きなことに打ち込める環境が整っています。
- ③ さまざまな体験や人々との出会い・交流の中で主体性を育み、自分たちの意見やアイデアがまちづくりにいかされていると実感できる機会が増え、地域に対する愛着が深まっています。
- ④ 学んだ知識や技能をいかせる多様な雇用が創出され、結婚などの新たなステップに、金銭的な不安を感じることがない水準の所得が得られることで、若者の定着が進んでいます。
- ⑤ 大学や異業種など、組織の垣根を越えて交流し、さまざまな人がつながることで、組織の活性化はもちろん、出会いの場の増加や個人の成長などにつながっています。
- ⑥ 結婚や出産を望む人が、経済的な理由や自身のキャリア形成など、さまざまな悩みや不安を抱えることで、諦めたり、機会を喪失したりすることがないように、結婚を望む人同士の出会い・交流の場が提供され、妊娠から出産、産後の悩みやこどもの発達に関する不安などに地域や福祉、医療が寄り添う環境づくりが進んでいます。
- ⑦ また、仕事と子育ての両立に向け、さらなる保育サービスの充実や、そのために必要な人材の確保に取り組むとともに、行政と企業が連携して、柔軟な働き方ができる就労環境を整えることで、育児休業をとること、育児や家事を共に行うことが当たり前の社会になっています。そして、子育てを地域全体で支える機運が高まり、子育ては楽しいものという認識が広く浸透しています。
- ⑧ いくつになっても健康で充実した生活を送れるよう、セカンドキャリアや余暇の過ごし方について、学び・考える機会が増え、新たな仕事や趣味、文化・スポーツや地域活動にチャレンジしやすくなっています。
- ⑨ また、定年後に松山へＵターン・Ｉターンする人が多く、それまで培った知識や経験、人脈などをいかして、新たな活躍の場を得ています。

- ⑩家事や買い物、社会参加へのサポートや、かかりつけ医の確保など、さまざまな困りごとの解決を家族だけに頼るのではなく、福祉サービスや、ご近所の見守りの中で、安心して自分らしく暮らし続けられるよう、地域福祉や医療の体制を強化することをはじめ、こどもから高齢者まで世代間の交流を通じて、「お互いさま」の気持ちで地域を支えています。

②「まち」がつながる

持続可能で安全・安心な快適に暮らせる都市環境が次世代につながっています。また、市の内外の「まち」とつながり、地域資源や文化・スポーツなどのコミュニティが新たな賑わいを生み、魅力が高まっています。

- ①瀬戸内の豊かな自然環境を保全し、次の世代につなげるため、再生可能エネルギーの導入や脱炭素型のライフスタイルへの転換など、「ゼロカーボンシティ松山」の実現を目指した取組が進んでいます。
- ②節水型都市づくりが進むとともに、道路や橋梁、上下水道施設など、都市インフラの強化が進み、大規模災害などにも耐えられる都市環境が形成されています。
- ③市民の命や財産を守り、早期にまちを復旧・復興することができるよう、行政や関係機関が連携した防災・減災への取組を進めます。また、全世代型防災教育が充実し、学校、地域、施設のタイムラインが広がるなど、市民一人ひとりの防災意識を高め、災害に強い安全・安心なまちになっています。
- ④公共交通をはじめ、さまざまな交通手段がシームレスにつながり、誰もが安全で快適に移動できる環境が整っています。
- ⑤松山空港国際線の増便、四国新幹線やバスタプロジェクトの実現、松山外環状道路の延伸などにより、さまざまなまちとつながるとともに、自動運転の公共交通機関や次世代モビリティが走行することで、移動の利便性が高まっています。
- ⑥ＪＲ松山駅、松山市駅、中央商店街、道後などの中心市街地では、地域公共交通とも連携し、歴史や文化などの地域資源を回遊できるようにすることで、コンパクトで歩いて暮らせる快適で緑豊かな都市空間が創出されています。
- ⑦また、文化・スポーツなどの交流施設、オフィスビルやホテル、飲食・商業施設などの集積やまちなか居住に加え、イベントやマルシェ、演奏やダンスなどのパフォーマンスで賑わうなど、さまざまな人や企業が集い、交流することで地域経済も活性化しています。
- ⑧誰もが文化や芸術に気軽に親しむことができる環境が整備されているとともに、地元プロスポーツをはじめ、さまざまなスポーツを「する」「みる」「ささえる」人たちを応援することで、市民のつながりが深まっています。
- ⑨それぞれの地域が持つ魅力や特性をいかしたまちづくりを進めるとともに、まちとまちの回遊性を高め交流を促進することで、新たな賑わいが生まれ、さらにまちの魅力が増えています。

- ⑩また、デジタル技術の導入や活用による、便利で住みやすいまちづくりが進み、その魅力を発信することで関係人口が拡大し、「行ってみたい」「住んでみたい」「住み続けたい」と、国内外から選ばれるまちになっています。

③「仕事」がつながる

誰もが働きがいを持ちながら、安心して仕事ができる松山に人やモノが集まっています。また、職業や働き方にかかわらず、「仕事」がつながることで、相乗効果が生まれ、地域経済の好循環が続いています。

- ①若者や高齢者、障がい者、外国人などが働きやすく、働きがいのある労働環境が整っています。
- ②市内企業の販路開拓、業務の効率性や生産性の向上のためのデジタル化、専門的な技術や知識を持った人材の育成などが進んでいます。
- ③また、国内の市場規模縮小が予想される中、アジア経済圏などの海外へ新たな販路拡大を進める企業が増加し、世界規模で加速している産業のG Xが進んでいます。
- ④松山市の基幹産業の一つである観光業では、道後温泉や松山城などの魅力が国内外へ効果的に発信されているとともに、M I C Eの誘致や瀬戸内の魅力をいかしたインバウンドの獲得など、戦略的な観光誘客が進んでいます。
- ⑤外国人観光客をはじめ、高齢者や障がいのある方など、すべての人が快適に観光できるよう、受入環境の整備が進み、買い物やサービス、交通分野のデジタル化やキャッシュレス化等が定着しています。
- ⑥また、さまざまな体験型メニューやナイトタイムエコノミーが提供され、旅行者の滞在日数が増加するとともに、地域の自然や文化を守り育み、住民の暮らしに配慮したサステナブルツーリズムが展開されるなど、世界から選ばれる観光地となっています。
- ⑦豊かな自然に恵まれた松山市の農林水産業では、経営の安定や生産性を向上させるため、新たな技術の導入や相談体制の整備が進んでいます。
- ⑧また、誇りを持って市外にアピールできる松山ならではの特産品を生み出し、製品のブランド化や販路拡大が進むとともに、デジタル技術の導入を通して生産性や所得を向上させ、儲かる仕事としての魅力が高まり、担い手の確保につながっています。
- ⑨テレワーク等によって松山に居ながら大都市圏の仕事を行う人や、空港から中心部までのアクセスの良さや暮らしやすさなどをいかして大都市圏との二拠点生活をおくりながら仕事をする人が増えています。
- ⑩また、大都市圏の企業や人材とつながる機会が増え、複業・副業人材の活用や新たなビジネス・産業が創出されています。

- ⑪行政、金融機関、大学、企業や関係団体などが連携して、新たな交流やイノベーションを生み出す「松山版エコシステム」が構築され、さまざまな立場を超えた協働共創のコミュニティが形成されているとともに、起業や新事業への進出の支援、DXによる社会課題の解決、デジタル人材の育成などが進んでいます。

(3) 総合計画の進行管理

総合計画は、Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検）、Action（改善）のPDCAサイクルによって、進行を管理します。また、「Check（点検）」にあたっては、庁内のみならず、外部の評価も参考にします。

変化の激しい時代にしなやかに対応するため、外部評価のほか、外部環境の変化も踏まえて、具体的な取組や数値目標を柔軟に変更できるようにします。

全体像を示すイメージ図が
入る予定